

医師・看護師・介護職員の大幅増員を 日本医労連増員闘争ニュース

第 191 号

2014 年 3 月 18 日

日本医労連

増員・夜勤改善闘争本部

TEL: 03-3875-5871

地方議会で「看護職員の实態調査」取り上げ 勤務環境改善と増員要求

各県医労連で「看護職員の労働実態調査」の記者発表・報道が続いており、地方議会では「実態調査」をとりあげ、看護師の勤務環境改善や増員を求める質疑が行われています。

北海道 需給見通し策定にあたり実態調査約束

3月13日、北海道議会で真下紀子道議（共産）が、道医労連発表の調査で「仕事を辞めたい」が7割を超えていること、北海道看護協会の調査では、拘束13時間を超える道内の医療機関が9割以上にのぼることをとりあげ、改善を求めました。真下議員は、島根県では県として実態調査に取り組んでいることも紹介し、北海道でも看護師確保対策として就業環境も含めた調査をして実態を把握するよう求めました。道の医療政策局長は、看護職員の需給見通し策定で勤務実態を調査すること、独自調査についても検討することを約束しました。

岩手 調査を看護師確保施策にいかす

岩手県議会では斎藤信県議（共産）が、新しい県立病院の経営計画に関連して、5年で322人の医師・看護師等の増員を評価しつつ、日本医労連の実態調査で慢性疲労が74%にのぼることや、岩手県内で月9日夜勤が今年度のべ514回行われていることを示し、勤務環境の改善をせまりました。岩手県医療局長は、日本医労連の調査について、「看護師の厳しい勤務実態を改めて認識した」とし、「勤務環境改善と看護師確保の施策の参考にしたい」と答弁しました。

岡山県医労連記者会見 TVも放映

岡山県医労連は、3月13日に、「看護職員労働実態調査結果（岡山県版）」を記者会見で発表。新聞・テレビなど5社から取材を受けました。看護師不足の実態と大幅増員・夜勤改善をしっかりと訴え、岡山放送と朝日新聞が報道しました。

